

2024 年度

事業計画及び収支予算

自 2024 年 4月 1日

至 2025 年 3月 31 日

2024 年度事業計画及び収支予算目次

I	総括	1
II	事業本部計画	3
III	支部活動計画	30
IV	収支予算	37

I . 総括

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」としていましたが、2023 年 5 月 8 日から「5 類感染症」になりました。それを受け JASA 活動は通常年と同様の活動を目指してきました。

EdgeTech+展（横浜）では 33,128 名の来場者となり過去最高人数で大盛況となりました。出展社数ではまだ 2019 年度に至っておりませんが、展示会事業は確実に回復してきております。

そこで、2024 年度は JASA 活動の完全なる復活を前提に通常年通りの予算計上にしております。

また、2024 年度は JASA ビジョン 2030 第 1 中期計画（3 ヶ年）の最終年となります。各施策の達成をより確実にするために、積極的に取り組むことができる予算編成となっております。第 1 中期計画を達成し、第 2 中期計画につなげていくことが重要になります。

2024年度の事業計画のもととなる重点項目は以下の通りである。

2024年度重点事業項目

- ①業界のトレンドをリードし、ビジネス交流の場である展示会事業を時代にマッチさせ発展させる
- ②先行技術の研鑽と企業の垣根を超えた場の提供及び成果物の共有化
- ③経営者の意識を変える研修、人脈形成の場の提供
- ④業界の認知度向上と人材採用活動の推進
- ⑤グローバルを視野に入れた事業形成と対応できる人材育成
- ⑥2030年に向けて会員企業から求められる人材育成の追求
- ⑦地域活性化を実現する取り組み

事業推進本部

- ①会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場の提供と経営者支援の強化
- ②ビジネスマッチングの手掛かりになる業界マップの作製
- ③JASAホームページの改善と情報発信力強化
- ④官、国内外企業、学生に対するJASAブランド・ロイヤリティの向上

交流推進本部

- ①国際化対応の支援
- ②各支部、地域団体との連携によるビジネスマッチングの場の提供
- ③新規会員獲得の推進
- ④学生の業界認知度の向上
- ⑤各本部イベントとの連携した新卒採用推進

人材育成事業本部

- ①ETECコンテンツ整備ならびに普及啓発の強化
- ②教育研修コンテンツのさらなる強化ならびに事業化に向けての整備
- ③海外人材教育研修事業の整備

技術本部

- ①機能安全とセキュリティ技術の追求及び安全仕様の手順化
- ②サプライチェーンでのセキュリティ委託事業の計画と実施
- ③組込みプラットフォームの構築
- ④モデリング技術の活用推進など先端研究レベルの成果追求
- ⑤AI活用技術の推進
- ⑥実用IoTとCPSを実現するエッジコンピューティング技術の推進
- ⑦RISC-Vなどオープンな技術の発展、振興に貢献

ET事業本部

- ①最新技術や注目される応用分野の取り込み
- ②若手来場者の取り込み
- ③業界団体ならではのコンテンツ提供
- ④ビジネス機会創出のための出展者支援強化

支部

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②Web会議、Webinarを活用した、支部内にとどまらず、全国レベルでの情報発信
- ③支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供
- ④該当地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進

II. 事業本部計画

事業推進本部

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

『JASA ビジョン 2030』と3ヵ年計画の推進と、次期3ヵ年計画の立案

- ① 3ヵ年計画の推進状況把握と、次期3ヵ年計画の立案
- ② JASA会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供(経営者交流委員会)
- ③ 広報活動の活性化(カオスマップ、JASAホームページ、BulletinJASA、JASAパンフレット)
- ④ 官、国内外企業、学生、他協会に対するJASAブランド・ロイヤリティの向上

2. 達成目標(完了条件)

『JASA ビジョン 2030』と3ヵ年計画の推進と、次期3ヵ年計画の立案

- ① 3ヵ年計画の推進状況把握と、次期3ヵ年計画の立案
⇒2022年3ヵ年計画の実施状況把握と課題の明確化
⇒2025年3ヵ年計画の立案
- ② JASA会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供(経営者交流委員会)
⇒トップリーダー倶楽部の運営を委員会化「経営者サミット委員会」
- ③ 広報活動の活性化(カオスマップ、JASAホームページ、BulletinJASA、JASAパンフレット)
⇒効率よい情報の発信力強化
- ④ 官、国内外企業、学生、他協会に対するJASAブランド・ロイヤリティの向上
⇒経産省をはじめとする官庁、地方自事体、他協会との連携を推進する

3. 1年目の目標

2022年度3ヵ年計画の最終年としてのまとめ

経営者交流委員会設立

JASAホームページ、BJの有効活用

4. 各事業計画

【事業No.1】定例会議(委員会、WG会議)

2023年3ヵ年計画の推進

四半期ごとにWEB会議を実施

半期ごとにリアル会議を実施

【事業No.2】支部訪問

本部と支部の連携強化、情報共有

各支部に1回訪問し、支部の課題、本部の情報提供を実施する

【事業No.3】トップリーダー倶楽部運営会議

→ 経営者サミット委員会として運営計画

経営者支援の施策4のJASA会員企業の経営者にとって必要とされる

①知識、②人脈、③協創の場を提供する。

経営者支援の施策4のイベントとして、事業継承に関しての講演会を企画実施し、懇親会を実施する。

毎月会議開催 トップリーダー倶楽部は2回実施

【事業No.4】他協会との情報交換

CIAJなどの他協会との情報交換により、より広い人脈、ビジネスチャンスを増やす

CIAJ、NICT、AISOL、都産技研、産総研などとの情報交換の場を作る

経営者サミット委員会の設置についてのご提案

1. 提案内容 経営者サミット委員会 設立

現状 事業推進本部—トップリーダー俱楽部 WG

“いま、トップリーダーに求められる ①知識 ②人脈 ③協創 の場”を提供することを目的にセミナー、情報交換会をトップリーダー俱楽部として開催

提案 事業推進本部—経営者サミット委員会

トップリーダー俱楽部の運営及び、経営者向けのサービス強化を鑑み、委員会化して継続的な活動とする。

2. 背景 2022 年度の 3 カ年計画において提案されました、経営者向け交流の場の提供として、2022 年度 ET West 、2023 年度 EdgeTech+ にて、トップリーダー俱楽部を実施しました。

2024 年度は、3 カ年計画の最終年度として、7 月の EdgeTech+West 及び、11 月の EdgeTech+ の会場にて、トップリーダー俱楽部を 2 回の開催を計画しております。

現在、トップリーダー俱楽部の運営は、事業推進本部内の WG で実施されていますが、今後のトップリーダー俱楽部の本格的な運営、経営者向けのさらなるサービス提供を鑑み、事業推進本部の元に、経営者サミット委員会 として、積極的に運営を考えております。

3. 体制・予算

事業推進本部(武部 専務理事)—経営者サミット委員会(額賀 理事)

2024 年度予算は、事業推進本部予算内で申請済み。

広報委員会

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- JASA ホームページを情報ハブとして、技術本部や EdgeTech+などの協会活動をメリハリを付けて取り上げるとともに、情報をアップデートし情報発信力を強化する
- BulletinJASA では、情報ニーズの高い技術本部に焦点を当てる。読まれる機関誌を目指し配布先を拡充する。
- EdgeTech+ の「+」部分の企業や大学への配布を企画・立案する
会員企業間や非会員企業とのマッチング、会員企業の広報に活用する会員情報管理システムの第 3 期開発を終える

2. 達成目標(完了条件)

- 会員企業間および非会員企業とのマッチング、会員企業の広報に活用する会員情報管理システム(開発第 3 期)
- ホームページ、メール、Facebook の連動性を高め、情報発信力を向上させる
- BulletinJASA は 4 月号(技術特集)、7 月号(技術本部発表会/EdgeTech+West)、10 月号(EdgeTech+)、1 月号(景況予測)の 4 回発刊
- JASA ホームページの拡充に寄与する新規コンテンツを立ち上げる(会員情報管理システムとの連携を視野)
- 北海道や九州における新規会員企業獲得の支援
- JASA の大きな特徴である技術本部についての情報発信を強化し、新規入会企業の委員会参加や新規会員企業の獲得に役立てる
- 事業本部や支部、委員会/WG が予算作成時に作成した今期目標を活用し、JASA ホームページの情報をアップデートする

3. 1 年目の目標

- 会員企業間と非会員企業とのマッチングに活用する会員情報管理システム(開発第 3 期)の完遂

- ・BulletinJASA のコンテンツ見直し。大学と技術本部(委員会/WG)への取材を拡充
- ・人材交流委員会と連携し大学関連の情報発信を強化
- ・EdgeTech+の「+」部分の企業や大学への BulletinJASA の配布を企画・立案する
- ・会員ビジネス情報メールや公的機関(経産省、IPA など)、業界団体(CIAJ など)からの情報の紹介チャネルを設ける
- ・新規に会員となった企業を積極的に BulletinJASA に掲載
- ・EdgeTech+でのポップアップや購読意向調査、購読ページへの動線強化で BulletinJASA の配布部数の拡大

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

BulletinJASA とホームページの編集会議、広報戦略のすり合わせと実行計画策定
1 時間/1 回/月をメドに、オンラインとリアルのハイブリッド開催

【事業No.2】会員情報管理システム(第 3 期:JASA ビジョン施策 5)

会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に資する。
JASA ビジョンの施策 5 に該当
JASA 会員の事業分野や新製品、ニュースなどの情報を集約し、会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する新たな会員情報管理システム

【事業No.3】協会広報(ホームページ)

JASA の情報ハブとして、JASA の活動を潜在的会員やステークホルダーに効果的にアピールする
JASA ホームページを JASA の活動状況を集約する情報ハブとして利用する。EdgeTech+、イノチャレ、ロボコン、プラグフェス、技術本部の活動をタイムリーに伝える窓口とする。各活動への動線とともに、各活動からの受け口を用意し新規会員獲得を図る

【事業No.4】協会広報(BulletinJASA)

協会活動の JASA 内外への周知
機関紙「BulletinJASA」の発行。発行時期は 4 月、7 月、10 月、1 月。JASA の活動をステークホルダーに伝える広報的な役割だけではなく、JASA ホームページへの良質なコンテンツ供給源として、会員企業のブランディングに資するメディアとして活用する。経済産業省をはじめとした、会員企業が知っておくべき公的情報を発信する

【事業No.5】協会広報(協会案内)

協会パンフレットの補充
2 年前の 22 年 3 月に 3,000 部を制作したが、在庫がなくなった。
組織の変更や JASA ビジョン、技術本部紹介などを反映した新たなパンフレットを製作。

政策提案委員会

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- ①政府(経産省)施策との情報交換会の実施
- ②IPA との情報交換会の実施
- ③支部との連携による地方経産局等との連携推進

2. 達成目標(完了条件)

- ①年 4 回程度の情報交換会を実施する
- ②年 1 回程度の情報交換を実施する
- ③地方からの声を収集する

3.1 年目の目標

経産省との連携会議が実施できること

IPAとの連携会議が実施できること

経産省、地方との情報共有

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

政策提案委員定例会(4回)

JASAとして、官への提言等を議論する

【事業No.2】経済産業省定例会

経産省との情報交換(予算決定時期、中間、来年度予算時期)

行政の施策と連携した施策を立てるために、情報交換を3回定期的に行う

【事業No.3】IPA 情報交換会

IPAとくに社会基盤センターとの連携を密にする

セキュリティ、アキテクチャ関連のIPAの動きに関連して情報交換を実施する

交流推進本部

国際交流委員会

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

1. 委員会の定期開催

活動検討、状況確認、情報収集(外部講師によるスピーチ)

2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、識者に依頼して「委員会スピーチ」の機会を設ける

2. 海外人財採用セミナー(2回実施: 7月/1月(ハイブリッド))

ビジネス交流委員会と支部例会等と共同企画も検討

AOTSや会員企業の協力体制を取り付け、スリランカ+αで検討予定

3. JASA グローバルフォーラム&国際交流委員会の情報発信

※グローバルフォーラムは2022年度と同様、対象国(地域)を選定してセミナー等実施

現時点での候補地はウズベキスタンをだが、審議中

ET展 : JASA グローバルフォーラム企画・実施、JASA ブースにて委員会活動情報の発信

機関紙 : BulletinJASA に「国際だより」を設け委員会より情報発信

HP : 国際フォーラムや委員会スピーチでの講演資料を掲載

4. 海外視察による海外動向の情報入手

現時点での海外視察研修(候補地: スリランカ)を予定だが、審議中

募集人数はJASA 経営層を中心に20名ほど想定

2. 達成目標(完了条件)

1.2ヶ月毎の委員会実施

2.2回のセミナー実施

3.グローバルフォーラムの実施

4.海外視察の実施

3.1 年目の目標

- ・各支部にて、年1回のセミナー開催
- ・引継ぎ：支部は支部企画セミナー、交流会手配を担当、その他の準備は、ビジネス交流委員会が担当
- ・講師派遣：地域問わず、講師派遣の実施（準備期間）

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認
事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行う
2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

【事業No.2】海外人財採用セミナー

JASA会員にグローバル人財を紹介・供給
海外人財採用セミナー(2回実施: 7月/1月(ハイブリッド))を実施する。

【事業No.3】「JASA グローバルフォーラム」「国際委員会の情報発信」企画・開催

JASA会員をはじめとした企業に対し、海外の動向及び、国際化推進に向けた情報発信。
ET2024を利用し、オンラインセミナー「JASA グローバルフォーラム」を企画・開催する。
JASA配信エリアを活用し、国際委員会の活動をET期間中ビデオ上映などで情報発信する。
現時点ではウズベキスタンを想定。

【事業No.4】海外視察の企画・実施

グローバル化の推進
リアル視察により海外のビジネスビジネス状況を把握する。
現時点に於いて、本年度はET2023で講演と密接に連携したスリランカを想定している。4月以降にリアルで海外視察研修を行う予定(JASA 経営層20社参加予定)。具体的には、現地の各種団体・JETROスリランカ事務所、JICA、大学訪問、企業訪問)との懇親・スリランカでの移動(バス)・現地ガイド・コーディネーターに充てる予定である(渡航滞在費は参加企業負担)。

ビジネス交流委員会

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

- 各地支部と連携した情報発信
- JASA認知度の向上
- 企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出
- 新規会員獲得の推進
- 2030ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ

2. 達成目標(完了条件)

- 「各地支部と連携した情報発信」「JASA認知度向上」
北海道支部・東北支部・北陸支部・九州支部と企画・運営で連携し、地域の需要に沿ったセミナーを開催する。
- 「企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出」「新規会員獲得の推進」
ネットワーキングパーティーの実施。他団体との協力強化。オンライン時は、オンライン名刺交換機能を活用する。
- 「JASA認知度向上」「新規会員獲得の推進」
従来のセミナーだけでなく、地方他団体、官公庁主催セミナーへの講師派遣により、JASAプレゼンスを高める。
- 「2030ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ」(支部の協力が必要)
各支部主体で、セミナーを開催できるようにする。

3.1 年目の目標

- ・各支部にて、年1回のセミナー開催
- ・引継ぎ：支部は支部企画セミナー、交流会手配を担当、その他の準備は、ビジネス交流委員会が担当・講師派遣：全ての地域にて、最低1名の講師派遣の実施

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

原則、毎月1回開催

【事業No.2】北海道協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プrezens向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、北海道支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、会員間あるいは会員外とのビジネスの創出、JASA会員獲得を狙う。24年9月開催予定。

【事業No.3】東北協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プrezens向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、東北支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、会員間あるいは会員外とのビジネスの創出、JASA会員獲得を狙う。
前年度に引き続き、盛岡県との共催も検討していく。

【事業No.4】北陸協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プrezens向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、北陸支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
新規会員のインテック様にご協力いただき、開催場所、ネットワーキングパーティーの開催方法などを検討し、実施する。24年11月開催予定。

【事業No.5】九州協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プrezens向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
モノづくりフェアへの参加も検討を進める。

【事業No.6】中国協業セミナー

地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プrezens向上、会員獲得、本地域は支部のないエリアのため支部化を目指す。
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、JASA会員獲得を狙う。
なお、22年1月に感染症拡大のため中止とした会を「延期開催」として開催。

【事業No.7】JASA ビジョン 3か年施策 5-3 地域他団体との連携強化(講師派遣)

業界振興、協会の活性化

支部主導の地域団体との連携を強化する。

従来のセミナー開催のみならず、地方情報系団体、地方官公庁が主催するセミナーへ講師派遣などを行い、JASA のプレゼンスを高める。

人財交流委員会

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

- 会員の新卒求人活動支援
- 会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流
- 学生の業界認知度の向上

2. 達成目標(完了条件)

- ①会員の新卒求人活動支援
 - 会員企業と学生のマッチングイベントである業界研究セミナー(Webinar)と交流祭典(会場型)を通じた学生・学校関係者との関係構築
- ②会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流
 - リアル・オンラインを併用したJASA会員および外部参加の人財育成および交流支援
- ③学生の業界認知度の向上

3. 1年目の目標

- ①新卒求人活動支援
 - 開催の要望がある関東、近畿で交流祭典を開催する。
(2回の開催で学生動員数100名を目標とする)
- ②管理者・幹部候補生 育成支援
 - リアル・オンラインによる人財育成プログラムを実施し、JASA会員、外部の参加者を募る。
(参加者40名以上を目標とする)
- ③業界研究セミナーを行い、学生および学校関係者に組込み業界の認知向上を図る。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認
各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換

【事業No.2】《管理者・幹部候補育成》

会員企業・外部の管理者、幹部候補者育成を支援し交流を促進する
会員企業・外部の管理者、幹部候補者育成のため外部から講師を招聘し、グループワーク形式のセミナーをリアル・オンラインを含めて年4回と成果確認会、最終成果発表会を行う。参加者は全国より募集し、会員間・外部の交流促進も目的とする

【事業No.3】《新卒求人活動支援》関東

学生に業界ならびに協会をPRし、会員企業との交流を図る。
関東圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。
その際、会員企業と学生の交流も図る。また学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.4】《新卒求人活動支援》近畿

学生に業界ならびに協会をPRし、会員企業との交流を図る。
近畿圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。
その際、会員企業と学生の交流も図る。また学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.5】《新卒求人活動支援》業界研究セミナー

全国の就活生・就活準備層に対して、組込みシステム開発業の認知と、就活の動機付けを行うとともに、会員企業の求人市場のアピールの場とする
オンラインでの業界研究に関するセミナーを行う。

組込みサービス業の PR と地域ごとに会員企業の会社紹介、求人情報をアピールする。また、学校関係者との継続的な関係構築を図る。

【事業No.6】《新卒求人活動支援》求人情報掲示

電子媒体を活用して、会員の求人情報をアピールする。
会員の求人情報を収集し、JASA ホームページに掲載する。
SNS(Facebook, Twitter 等)で情報露出する。

【事業No.7】《学生の業界認知度向上》業界情報発信

学校法人に組込みシステム開発業界の情報を提供する。
機関誌『BulletinJASA』(年 4 回)を学校法人に発信する。
* 発送に伴う経費は広報委員会で計上予定。

【事業No.8】《学生の業界認知度向上》学校教育参画・支援

学校教育の実態を調査し、可能な範囲で教育に参画する。
① (初等教育) プログラミング基礎教育の実態把握
② (高等教育) 実践教育カリキュラム策定・検証に参画

人材育成事業本部

ETEC 事業推進委員会

1. 活動概要 (2024 年度の事業方針)

業界団体としての、るべき人材育成事業の追求
ETEC 試験の普及活動(認知度向上・利用拡大)
学習コンテンツ開発
ETEC 試験の品質管理

2. 達成目標(完了条件)

ETEC 試験の普及活動(利用拡大)

Voucher 購入枚数・価格帯の再設定:1~4 枚販売中止(クレジットカード・振込による受験)、
6~49 枚(5%Off)

ETEC 試験の普及活動(認知度向上)

会員紹介キャンペーン:会員に非会員企業をご紹介いただき、一定期間のみ会員料金を適用する。

学習コンテンツ開発

ETEC クラス 1 受験者層向け独習コンテンツ開発(下巻)

ETEC 試験の品質管理

試験問題の更新

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

委員会運営
・委員会(試験運用運営状況の把握、マーケティング、プロモーション) 隔月年 6 回程度

【事業No.2】«試験運用»ETEC クラス 1

ETEC クラス 1 (ks-100) の運営収支
収入:受験料
支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.3】«試験運用»ETEC クラス 2

ETEC クラス 2 (ks-200) の運営収支
収入:受験料
支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.4】ツール類作成

ETEC 周辺のツール作成
・周知用資料制作・印刷
・証明書/証明カード発行・発送に伴うツール(専用封筒、クリアファイル等)

【事業No.5】試験版改定

4 年ごと試験版を改定する
過去の受験結果を元に、試験品質を分析し、
・試験問題の再校正
・新問題の組込み
・受験結果の評価の標準化

【事業No.6】認知拡大

ETEC 試験体験を提供し、評価やレベルを体感させる。
○紹介キャンペーン
会員より組込開発企業(非会員)を紹介いただき、一定期間会員料金を適用
○学校(教員)向けに DM

【事業No.7】需要開拓

法人受験市場の需要拡大
○既存利用企業にヒアリングを行い、ETEC を活用した人材評価を周知
○ボリュームディスカウント(まとめ購入割引)の制度設定見直し
○ETSS との関連付け

【事業No.8】学習書籍制作

ETEC クラス 1 受験者層向け独習コンテンツ開発(下巻)
○構成検討
○コンテンツ開発・校正
○販路検討

教育研修コンテンツ事業推進委員会

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

人材育成/人材開発事業強化
教育コンテンツの整備
会員参加し易い有料セミナーの拡充
会員企業における人材育成課題のヒアリング

2. 達成目標(完了条件)

2023 年度に会員企業にヒアリングした結果及び 2023 年度実施済人気高講座を中心に、セミナー実施する。
有料セミナー:新規 4 件、改定版 2 件、前年度以前動画オンデマンド 5 件

3.1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業推進のための、相談・報告・運営会議

各事業の進捗はデータ共有し、会議の場で運営の相談をする。

隔月開催を予定(必要に応じて随時開催)。

【事業No.2】有料セミナー運営システム

受講料の課金システムを備えた Webinar プラットフォーム“EventHub”の継続利用

EventHub の利用についての本部管理として未計上

【事業No.3】人材育成

組込みシステム開発従事者に帶する、スキルアップ研修

○ プロジェクトマネジメント

○ 生成 AI

○ IoT 倣瞰技術

他 改定版 2 件、昨年度動画オンデマンド 5 件

【事業No.4】人材開発

経営層・管理者層から現場スタッフに対する、会社人としての知識・行動に関する研修

○アジャイル開発受注・契約 等

【事業No.5】調査

会員企業への個別ヒアリングを実施し、2025 年度以降の講座開発に向けた人材育成課題の把握

○調査項目、ヒアリング項目の選定

○個別ヒアリング実施

○他

外国人技術者教育研修 WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- ①人材不足対策として外国人エンジニアの確保支援
- ②外国人エンジニア採用におけるノウハウの獲得
- ③外国人エンジニアが日本で働きやすい環境づくり

2. 達成目標(完了条件)

- ①スリランカを対象に寄付講座の実施
- ②外国人エンジニア採用国の調査
- ③寄付講座コンテンツ製作・整備

3.1 年目の目標

2023 年度の 8 名のインターンシップの実績をベースに、15 名以上のインターンシップを受け入れる
インターンシップで受け入れた人材の就職支援

4. 各事業計画

【事業No.1】スリランカインターンシップ

スリランカの大学との寄付講座推進

約 15 名のインターンシップの受入れを推進

【事業No.2】新規開拓国との情報交換
タイ、マレーシアその他の大学との連携の摸索
情報交換を実施し、外国人エンジニア候補を調査する

ET 技術者教育委員会

1. 活動概要 (2024 年度の事業方針)

JASA 各支部との連携に基づく ET ロボコン地区大会認知度向上、参加チーム拡大

2. 達成目標(完了条件)

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】ET ロボコン認知度向上

JASA 各支部との連携による ET ロボコン認知度向上
九州半導体人材育成コンソーシアム等、各地区の産学官連携の場に出向き、ET ロボコンと技術人材育成への活用事例を紹介する。

【事業No.2】ET ロボコン

複雑化する組込み開発の人材育成を目的としたコンテストの企画および運営全般
全国地区大会及びチャンピオンシップ大会における競技会と付随する技術教育・モデリングワークショップなどの実施・運営

JASA イノベーションチャレンジ実行委員会

1. 活動概要 (2024 年度の事業方針)

企画や内容については非常に高評価をいただいているイノベーションチャレンジであるが、2023 年度も参加チーム数に伸び悩み、3,700,000 円ほどの赤字を計上するに至っている。
2024 年度は、イベント内容を抜本的に見直し、より多くの参加チームを募れるような内容に変更するとともに、引き続き運営費用の削減を図ることにより、継続的なイベントの実施と赤字運営からの脱却を目指す。

2. 達成目標(完了条件)

3. 1 年目の目標

参加チーム数:20 チーム(2023 年度は 14 チーム※スポンサー 5 チーム)
スポンサー企業:なし(2023 年度は 5 社)

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認
各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換
年 2 回実施予定 近畿で実施予定

【事業No.2】デジタル人材 イノベーションチャレンジ

DX 推進に貢献できるビジネス指向人材の育成を目的としたコンテストの企画および運営全般(旧 DX イノベーションチャレンジ)
書類審査、一次審査、決勝大会等における審査会の開催と付随するセミナー・相談会・チームビルディングワークショップなどの実施・運営(決勝大会を除き、すべてデジタル開催とする)

技術本部

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

会議(委員会、WG会議)、成果発表会、技術本部セミナー(EdgeTech+West2024)、技術本部セミナー(EdgeTech+2024)、技術本部・各委員会の成果を発表する

2. 達成目標(完了条件)

会議の実施、成果発表会の開催、EdgeTech+Westでの技術本部セミナーの実施、EdgeTech+2024での技術本部セミナーの実施、EdgeTech+2024での技術本部・各委員会の成果の展示を実施する

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。
四半期毎に1回

【事業No.2】技術本部成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。
今年度はリアルにて実施

【事業No.3】技術本部セミナー(EdgeTech+West2024)

EdgeTech+West2024開催の機会を利用して、技術本部各委員会の中間成果を中心にセミナーを実施する

【事業No.4】技術本部セミナー(EdgeTech+2024)

EdgeTech+2024JASA技術本部セミナーを開催。
技術本部・各委員会の成果を発表する。

【事業No.5】技術本部・各委員会の成果を発表する

EdgeTech+2024JASAベースにおいて、PR活動を行う。
主にJASA会員に対するAI技術振興を行う。
スタートアップの先端技術の情報をJASA会員で共有できるように支援する

安全性向上委員会

1. 活動概要(2024年度の事業方針:事業予算案)

- (1) AIやIoT(含むセキュリティ)に代表される複雑システムの機能安全の課題や国際規格に関する調査・研究を行う。
成果は積極的に情報発信していく。
- (2) STAMPモデルをコア技術とした安全設計や事故分析の事例を蓄積し、技術者の啓発活動に役立てる。
- (3) 安全設計にかかる仕様書において、その論理性や非機能要件の明示化にかかる問題点を整理して改善のための議論をする。
- (4) 上記で得た知見を整理し、セミナーなどでの啓発活動を行う。加えて、有識者に指導をいただき、さらに知見を高める。そのためにも、大学、研究機構、IPAなど外部組織・団体との技術交流、連携を積極的に推進する。
- (5) 「つながる社会での機能安全」、「安全仕様化」、「啓発・連携」の3つを委員会内WGとして設置する。

2. 達成目標(完了条件)

- (1) 定例会にて各WGの活動を行う。

- (2) JASA 内での他の委員会(特にセキュリティ委員会)との合同での合宿を行い、Safety & Security の考え方をまとめる。
- (3) STAMP-WS への投稿。
- (4) 安全設計セミナーの開催。
- (5) 上記を通じ、委員各位の知見を深めるとともに JASA 会員企業へ複雑システムの安全設計に関する考え方の普及啓発を行う。

3. 1年目の目標

- (1) 新設の「つながる社会での機能安全」の概要を明らかにする。
- (2) STAMP-WS の運営に協力(継続)
- (3) 都産技研との連携、技術セミナーの共同開催(継続)
- (4) 安全設計入門改訂版の内容を中心にJASAセミナー開催
- (5) 有識者、関連団体との連携協力の推進
- (6) 上記を通じ、委員各位の知見を深めるとともに JASA 会員企業へ「安全性」の普及啓発を推進する

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

年度計画の策定、推進、状況確認。対外組織との連携を企画する。

- ・定例会(月一回)を開催し、各WGの活動報告から情報共有、意見交換を行い、「安全性」に関する見識や技術力の向上を図る。
- ・国内外の機関の技術動向ウォッチ、相互紹介を進めビジネス機会の提供を図る。
- ・STAMP/STPA/CAST に関わる情報収集を行う。
- ・セキュリティ委員会との連携によるセキュリティと安全性の融合に関わる情報収集を行う。
- ・会合は原則、委員会と一体で進めるが、議案は各WGで独立に行う。

【事業No.2】「つながる社会での機能安全」WG

つながる社会での機能安全の課題検討、特に AI・IoT(含むセキュリティ)がかかる複雑システムの安全にかかる課題を検討する。

- ・AI/IoTエッジの安全について理解を深める。
- ・Safety & Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。
- ・STAMP/STPA/CAST にかかる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる
- ・研究の企画、セキュリティ委員会などとの合同研究会の交渉(10月前後)

【事業No.3】安全仕様化WG

安全性にかかる設計の課題検討、特に上流工程の課題を検討する。

- ・Safety & Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。
- ・安全がかかる要求を仕様化するプロセスを研究し、プロセスモデル又は手法を提案する。
- ・啓発・学術活動として、セミナー講師の派遣、学会や技術誌への投稿を行う。
- ・安全誘導型設計プロセスモデルを重点課題とし、自主的に活動し、相互啓発を図る。
- ・手法として、意図・要求記述手法や、形式検証手法、安全解析手法に取組む。
- ・AI/IoTエッジの安全について理解を深める。
- ・STAMP/STPA/CAST にかかる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる

【事業No.4】啓発・連携 WG

委員会活動の成果を発信し、社会啓発に資する。

- ・機能安全を中心に安全技術／文化に関する調査活動を行う。
- ・外部との交流の中からオープンイノベーションの機会を増やしていく。

【事業No.4】安全設計セミナーWG

委員会活動の成果を発信し、安全技術の普及を行う。

- ・安全設計セミナーの開催(JASA 内、企業出張)
- ・STAMP／STPAを中心に行う。
- ・聴講者との交流も深める。
- ・開催要領作成、開催支援は委員会と一体で進める。

組込みシステムセキュリティ委員会

1. 活動概要(2024 年度の事業方針:事業予算案)

- ・IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応認証事業の運営
- ・JASA 版「組込みセキュリティ教材」の運営
- ・サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
- ・外部組織との情報交換、セミナー活動
- ・委員会活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

2. 達成目標(完了条件)

- 1.IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応認証事業の運営

23 年度にセキュア IoT プラットフォーム協議会と立ち上げた「IoT セキュアプログラム」(IEC62443 ベースの認証)を運営していき、認定事業を有償で運営し、収益に繋げる。

- 2.JASA 版「組込みセキュリティ教材」の運営

委員会に参加している企業にて、開発したセキュリティ教材を運営しえいき、有償セミナーを実施し、収益に繋げる。開発コンテンツは、改変/受講者のレベルに合わせて、変更しながら運営を実施する。

- 3.サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)

23 年度中に開発が完了しなかった EU EN303 645 規格、米国の NISTIR8259 など国際情勢を見ながら、IoT 機器向けの規格調査を行い、コンテンツを開発し、オンラインで有償配信を行い、収益に繋げる。

- 4.外部組織との情報交換、セミナー活動

都立産業技術センターとの共同セミナーの開催、セキュア IoT プラットフォーム協議会との共同セミナーの開催などを通じて、中小企業向けの啓発活動を実施する。その他、団体との連携は隨時実施する。

- 5.委員会活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

EdgeTech+での講演による会員企業の知名度アップと中小企業向けの啓発活動を実施する。

委員会は、月 1 回の開催を実施する。JASA 内での他の委員会、WG ともにセキュリティ部分で連携を図る。

3. 1 年目の目標

- ・「IoT セキュアプログラム」の認定事業を運営し、収益に繋げる。JASA 版「組込みセキュリティ教材」の運営については、委員会独自の運営として、有償セミナーの実施し、収益に繋げる。また、サイバーセキュリティ国際規格の動向調査として、EN303 645、NISTIR8259 を調査し、コンシューマ向けの IoT 機器向けのセミナーコンテンツを開発し、動画コンテンツの配信の有償化を計画する。
- ・23 年度に人材育成事業部に提供したコンテンツを人材育成事業部がセキュリティ教育コンテンツに対する連携を図り、セキュリティの ETEC を立ち上げる計画を立案し運営計画を検討する。
- ・一般消費者、組込み開発者向けに他団体と協力し、セミナーを開催しながらセキュリティ啓発活動を行い、セキュリティに対する意識向上を図る。

4. 各事業計画

- 【事業No.1】IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応認証事業の運営

セキュリティ国際規格の認定支援による収益化

組込み開発におけるセキュリティ国際規格の認定が必要な企業向けのコンサルティングビジネスの立ち上げによる収益化

- 【事業No.2】JASA 版「組込みセキュリティ教材」の運営

JASA としてのセキュリティ教育ビジネスの開発と有償セミナー開催による収益化

JASA 版「組込み技術者向けのセキュリティ教材」の開発と ETEC 試験制度の立ち上げによる収益化

【事業No.3】サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
サイバーセキュリティ国際規格のコンテンツ開発と有償セミナーによる収益化
EN303 645、NISTIR8259 の規格説明コンテンツの動画配信による収益化

【事業No.4】外部組織との情報交換、セミナー活動
都産技研など、外部団体でのセキュリティ啓発用のセミナー
セキュリティ啓発活動として、セミナーを実施する。

【事業No.5】委員会活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動
委員会活動、EdgeTech+での講演対応
委員会は、毎月 第 2 木曜日、通年 12 回を実施
EdgeTech+は、West、横浜での講演を実施

コモングラウンド委員会

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- ・JASA2024 年度重点項目である「⑥実用 IoT と CPS を実現するエッジコンピューティング技術の推進」を実行する。
- ・Society5.0 を実現するための、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を融合させたデジタルツイン(コモングラウンド、デジタルライフライン、箱庭など)について、組込みの観点から調査研究し、成果や課題解決に向けた提案を情報発信する。
 - ①ドローン WG ⇒ 箱庭を活用したドローンシミュレーションの検討。
金沢工業大学との VTOL ドローンの機体開発、MCPC と連携した無線状況計測。
 - ②スマートライフ WG ⇒ ハッピーガチャ等エモーションをトリガにした QOL 向上ソリューション検討。
- ・2020 年度から 2022 年度のコロナ禍での WEB ベースでの活動経験を踏まえて、リモートでの活動が可能となつた。

2. 達成目標(完了条件)

本委員会は、デジタルツイン(CPS)を実現するための、技術調査、課題解決方法を検討し、検討した内容を広く周知する。
そして、会員企業はもとより業界団体と相互連携し、「共創によるビジネスの実現を図ること」を達成目標とする。
また、会員企業からの課題について、解決策を検討するとともに、企業、業界団体とのマッチングを実施する

3. 1 年目の目標

- 情報発信活動の継続
- (1) JASA HP での活動内容の掲示
 - (2) EdgeTech+展示会やセミナーでのデモ展示、講演、パネルディスカッションなどの実施。
 - (3) 業界団体との情報交換、有識者との勉強会の実施。
 - (4) JASA 会員企業を含めた、委員会活動メンバーの募集。
 - (5) その他
共創プロジェクトの実現

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)
活動計画、進捗状況の確認
・年 12 回程度の開催

- ・有識者を招いた講演&勉強会
- ・各種業界団体との連携

【事業No.2】EdgeTech+West2024

- 委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。
- ・ブース展示:コモングラウンド委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
 - ・セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.3】EdgeTech+2024

- 委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。
- ・ブース展示:コモングラウンド委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
 - ・セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.4】福岡ものづくりフェア

- 委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。
- ・ブース展示:コモングラウンド委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
 - ・セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.5】コモングラウンドリビングラボとの連携

- コモングラウンドに関しての意見交換会の実施
- ・コモングラウンドリビングラボの方を招いてのセミナーの実施
 - ・コモングラウンドに関しての情報交換

【事業No.6】ToppersProject 箱庭 WG との連携

- シミュレーション HUB となる箱庭を利用したデジタルツインプロトタイプの実現
- ・インフラセンサーで取得した情報をバーチャルに反映させる技術の調査
 - ・箱庭 WG との情報交換

ドローン WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- (1) TOPPERS 箱庭 WG との連携研究、普及活動(立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様含めた研究)
- (2) ドローンショージャパン様との共同研究
- (3) 金沢工業大学との共同研究
- (4) WG 活動
- (5) MCPC 様との電波観測実験

2. 達成目標(完了条件)

23 年度までに金沢工業大学と連携研究していた内容を、TOPPERS 箱庭 WG と連携を図り、ドローンのシミュレータ開発をすることができた。

24 年度は、箱庭ドローンシミュレータ軸に、ドローン活用におけるデジタルライフラインの実現に向けた活動を実施する。

1.TOPPERS 箱庭 WG との連携研究、普及活動(立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様含めた研究)
23 年度に開発した、箱庭ドローンシミュレータの活用幅を広げるため、立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様とドローン開発の利活用に向けた情報交換を実施しながら、箱庭ドローンシミュレータの活用幅を拡張する。箱庭ドローンシミュレータを使った勉強会を企画し、普及活動を実施する。これらの内容活動し、JASA 会員企業に箱庭を使ったシミュレーション応用を発進し、開発における効率化に利用してもらうように活動をする。

2.ドローンショージャパン様との共同研究

ドローンショージャパン様から、JASA ドローン WG との連携の依頼があり、連携した共同研究にむけた情報交換、箱庭ドローンシミュレータの利活用についての検討をする。

3. 金沢工業大学との共同研究

箱庭ドローンシミュレータでシミュレーションした結果を物理的にフィードバックし、実際の機体での有用性を実証実験する。

4. WG 活動

不定期になるが、年 数回は実施する。また、箱庭ドローンシミュレータに関して、EdgeTech+での講演を実施し、普及活動を実施する。

5. MCPC 様との電波観測実験

ドローンの工場設備における監視を行うための、電波利活用に向けた共同研究を実施する。

3. 1 年目の目標

TOPPERS 箱庭 WG との連携研究を通じて、ドローン開発している立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様と連携を図り、ドローンシミュレータの利活用に関する普及活動を実施する。

ドローンショージャパン様、金沢工業大学との共同研究は、実際の機体を使ったものになるが、より安全性を向上させるため、箱庭ドローンシミュレータとの連携による安全性に関する検討を実施する。

これらの活動を実施し、JASA 会員企業に向けた、箱庭の利活用を発進し、シミュレータの利活用した開発を行うことでの、開発現場での活用に繋げる。

4. 各事業計画

【事業No.1】WG 活動

WG は、組込みシステムセキュリティ委員会があるため不定期開催

EdgeTech+での講演は、West、横浜で箱庭ドローンシミュレータを題材として実施。

【事業No.2】ドローンショージャパン様との共同研究

ドローンショージャパン様との連携による箱庭ドローンシミュレータ拡張

ドローンショージャパン様から、JASA ドローン WG との連携の依頼があり、連携した共同研究にむけた情報交換、箱庭ドローンシミュレータの利活用についての検討をする。

【事業No.3】金沢工業大学との共同研究

箱庭ドローンシミュレータ結果の物理空間へのフィードバック方法の検討

箱庭ドローンシミュレータでシミュレーションした結果を物理的にフィードバックし、実際の機体での有用性を実証実験する。

【事業No.4】TOPPERS 箱庭 WG との連携研究、普及活動(立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様含めた研究)

23 年度に開発した箱庭ドローンシミュレータ、応用に関する検討

立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様とドローン開発の利活用に向けた情報交換を実施しながら、箱庭ドローンシミュレータの活用幅を拡張する。

箱庭ドローンシミュレータを使った勉強会を企画し、普及活動を実施する。これらの内容活動し、JASA 会員企業に箱庭を使ったシミュレーション応用を発進し、開発における効率化に利用してもらうように活動をする。

【事業No.5】ドローンの室内利用に向けた電波の利活用の実証実験

実際の室内施設を利用した電波観測を MCPC 様と共同研究し、実測した結果を箱庭ドローンシミュレータに反映し、ドローンシミュレータの利活用幅を広げる。

スマートライフ WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

・人の感情(エモーション)や状態(バイタル)をセンシングし、IoT として応用する技術の調査・研究の実施。

- ・現状、エモーションフラワー やハッピーミラー、スマイルガチャ等エモーションをトリガにした QOL 向上の活動が中心になっているが、スマートライフとして、感情以外のバイタルセンサーを使ったセンシング技術を学ぶ。
- ・ifLink オープンコミュニティと連携し、IoT の普及を促進する。
- ・検討したソリューションについて、プロトタイプを作成し、サービスの有用性について実証実験を行う。
- ・展示会を通じ、スマートライフ WG の活動メンバーを増やす。
- ・RC88(COMMA ハウス)、IoT-EX、トリリオン研、都産技研など様々な会社、団体と交流し、オープンイノベーションを推進していく。
- ・エモーションをメタバース上に反映(デジタルツイン)し、実現できるソリューションの検討。
- ・島根大学の研究室や、福祉施設と連携し、研究内容の実証実験を検討する。

2. 達成目標(完了条件)

プロトタイプ作成で得られた技術的な知見を成果としてまとめ情報展開を行う。(設計書、コード等)

展示会にて、セミナーを実施し、スマートライフ WG の活動成果を発表する。

様々な会社、団体(RC88(COMMA ハウス)、IoT-EX、ifLink オープンコミュニティ、トリリオン研、都産技研)との協力、連携、交流をし、JASA のプレゼンスの向上を図る。

ソリューションのビジネス化に向けた検討を行う。

3. 1 年目の目標

センサ(エモーションセンシング等)の継続調査、研究。

ifLink 対応したエモーションセンシングプロトタイプ作成。

新規ソリューションの検討。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

情報共有、メンバーとのディスカッション、プロトタイプ作成進捗報告

メンバーとのディスカッション、情報共有、プロトタイプの作成状況確認、デモ展示に向けた確認等

スマートライフに利用できる新規センサ(特にエモーションキャッチセンサ)の調査・研究

実証実験で得られた技術的な知見のまとめ。(勉強会、セミナー実施)

【事業No.2】プロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデアの展示会に向けたプロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデア実現のためのセンサー調査、プロトタイプ作成。

ifLink オープンコミュニティとの連携で、ifLink 対応のセンサー、アクチュエーターを動作させる。

【事業No.3】EdgeTech+West2024

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を形成する。

スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

【事業No.4】EdgeTech+2024

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を形成する。

スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

【事業No.5】実証実験、研究

スマートライフ WG の活動での成果を、ユーザー環境で試用し、ビジネス展開につなげる。

スマイルガチャ等のプロトタイプを作成し、試用する。

実験の対象として、島根大学の研究室との連携を検討する。

島根大学との打ち合わせ、福祉施設への訪問を検討する。

応用技術調査委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

OSSC 共同セミナー、WG 会議、RISC-V エコシステム調査、LSI 開発 OSS 調査、OSS 普及セミナー、組込み OSS 鳥瞰図作成、OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査、広報資料作成、外部発表

2. 達成目標(完了条件)

OSSC 共同セミナーの開催。

WG 会議の開催。

RISC-V エコシステム調査報告書の作成。

LSI 開発 OSS 調査報告書の作成。

OSS 普及セミナーの開催、ハンズオン実施。

OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査報告書の作成。

広報の資料作成。

外部発表の実施。

WG 会議の開催。

3. 1 年目の目標

LSI 開発 OSS 調査を行う

ハンズオン開催は適宜行い、OSS 技術振興と会員の技術向上に貢献する
セミナー開催は適宜行い、技術振興と JASA の認知度向上に貢献する

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

WG 活動のため

・隔月、年 6 回(都内、関西など)の開催

【事業No.2】LSI 開発 OSS 調査

LSI 開発用 OSS の利用を促進するため、OSS の一覧表をまとめ、それらの使用方法を調査する
LSI 開発用 OSS を使用して、中小企業でも完全オリジナル LSI の開発が可能になりつつある。それに関わる OSS の情報と使用方法をまとめる

【事業No.3】外部発表

WG の活動果を公表し、活動をアピールする

1.技術本部成果発表会(5 月) JASA 会員向け報告

2.EdgeTech+2024 技術本部セミナー(11 月) 一般向け啓発

【事業No.4】OSSC 共同セミナー

OSS の活用を促すセミナーを実施する。同時に WG の活動を外部にアピールする。

OSS コンソーシアム AIR 部会と共同で、開催。外部より講師を招き、最新の OSS 情報を、
一般に知らしめるセミナーを主催し、WG の活動をアピールする。

時期は通年で、年に 3 回程度実施。

【事業No.5】広報資料作成

WG の活動成果を公表し、WG の活動をアピールする。

フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成

【事業No.6】RISC-V エコシステム調査

オープン・ソースな CPU RISC-V を取り巻く環境を調査する

RISC-V CPU を搭載したボードをもとに、CPU アーキテクチャ、開発環境を調査する。RISC-V のために活動している有識者、団体などと交流をはかり、RISC-V エコシステムの中での組込み団体の立ち位置を探る。開発環境 OSS、OSS な組込み用ブートローダなどの調査を行う

【事業No.7】OSS 普及セミナー

JASA 会員などへの OSS とオープン・ソース・ハードウェアの振興を諮る
座学とハンズオンを混合した形式で、組込み技術が身につくセミナーを実施。
本年度は、近畿地方で数回程度の連続実施を計画。

【事業No.8】OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査

OSS ドローンを飛行させるための、諸事情を調査する
ドローンは飛行させるために、飛行場所、操縦のための資格などが必要である。
また、OSS を使用したドローンを今後運用するために、必要となりそうな事柄を調査する

アジャイル研究 WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

WG 会員の課題解決による技術及びマネージメント情報の共有と研究成果の情報発信
委員の知見を深めるためのセミナーを開催する。

2. 達成目標(完了条件)

ET 展や技術本部成果発表会等での研究発表
委員の知見を深め、各社の業務に研究成果を反映頂く

3. 1 年目の目標

参加会員の課題や諸問題をアジャイル開発等の手法を活用し、解決し、その成果事例を ET 展で発表する。
外部講師による講演会や情報交換の場を会員に提供する。
参加会員の増強

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

開発の課題をアジャイルなどの手法を導入して改善する研究会
2012 年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。
開発の課題解決にアジャイルなどの手法を適用して試行し、評価する。

【事業No.2】アジャイル勉強会(セミナー開催)

外部講師をお招きし、より広い知見を得る
上記 WG に合わせ、年に 2 回は外部講師をお招きし、セミナーを開催する。

AI 研究 WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

研究定例会議(毎月)
勉強会(全 5 回(講義:4 回、発表:1 回))

2. 達成目標(完了条件)

- (1) エッジ AI が一般化するまで機械学習の最新技術の取り込みとコンペ参加で技術力を向上させ、エッジ機器への AI 実装を試す
- (2) Deep Learning を使用したデモ開発と参加企業上長向けの内部デモ発表

3.1 年目の目標

- 1) 興味のあるテーマを Why to make で繋がったグループで取り組み、結果を展示会などで発表
- 2) AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組める技術者の育成。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

Deep Learning を既に理解し開発できる技術者とエッジ AI 活用研究
毎月、1回 1 時間のオンライン WG を行なう。

【事業No.2】技術者育成

AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組める技術者の育成
年 5 回(ほぼ隔月)、1 回 3 時間のオンライン勉強会を行なう。

プラットフォーム構築委員会

OpenEL 活用 WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- OpenEL の仕様の強化
- OpenEL の普及・啓発を強化する
- OpenEL の国際標準化の可能性を調査する

OpenEL を国際標準とするためには、優れた仕様だけでは不十分であり、多くのユーザーに使っていただく必要がある。そのためには、多くのユーザーが使用しているプラットフォームに対応するのが得策である。よって、ET ロボコンのプラットフォームとして採用されている LEGO 社の EV3 などへの対応を行う。

また、ET ロボコンに限らず、高度化する組込みシステム開発において品質と効率を上げるモデルベース開発が求められており、上流から下流まで一気通貫して開発できることが重要である。そして、これを実現するために各レイヤーのツールベンダーを巻き込む必要がある。そして、各ツールで OpenEL をサポートすることにより、インターフェースが統一されるため、モデルからソースコードを自動生成し、さらに自動テストまで行なうことが可能になる。ゆえに、OpenEL が組込みシステム開発において上流から下流まで一気通貫したソリューションを提供する核となる。

さらに、組込みシステムセキュリティ委員会と連携し、セキュリティ対応を目的として仕様を強化する。

2. 達成目標(完了条件)

- OpenEL の仕様の強化
- OpenEL の国内外における普及
- OpenEL の国際標準への提案

3.1 年目の目標

- OpenEL の仕様の強化
- OpenEL の国内外における普及
- OpenEL の国際標準化の可能性の調査
- OpenEL の国内外における普及のため、OpenEL 対応プラットフォームとデバイスを強化する。
プラットフォームでは、WoT や Azure IoT での OpenEL の利用を推進する。
また、Azure Digital Twins によるデジタルツインの実現可能性を調査する。
- デバイスでは、すぐに製品に組み込めるボードに対応することにより、OpenEL の製品での採用実績を増やす。
各レイヤーのツールベンダーを巻き込み、OpenEL エコシステムを構築する。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

OpenEL の仕様策定、普及・啓発およびその他の活動計画の立案、国際標準化の可能性の検討

組込みソフトウェア開発技術の調査、アクチュエーターやセンサーに関する技術の調査、講師を招いての勉強会の開催、OpenEL 仕様書の執筆、実装などの具体的な作業を行う。

【事業No.2】EdgeTech+West

OpenEL の普及・啓発活動

EdgeTech+West 2024 にて、OpenEL を用いた組込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

【事業No.3】EdgeTech+2024

OpenEL の普及・啓発活動

EdgeTech+2024 にて、OpenEL を用いた組込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

組込み IoT モデリング WG

1. 活動概要 (2024 年度の事業方針)

本 WG では、IoT 時代に必要とされる手法やモデルを明らかにし、その活用を促すとともに共有資産の創出を目指す。

進め方としては、大まかな方向性や見解を議論する WG と、それを使って実際にモデルを作成し有効性を検証し、WG にフィードバックするサブ WG の 2 つの活動を並行してしていく。

2. 達成目標(完了条件)

IoT 時代に有効なモデルの活用方法に関する知見をガイドラインの形でまとめることが出来た時点で、完了とする。

完了時点で、新たな課題や次に活動すべきテーマが見えていれば、改めて計画を立てて継続を検討する。

3. 1 年目の目標

SoS(System of Systems)での課題となるセキュリティに対し、事前にモデリングを試みることで、問題となりそうな箇所を事前に検討出来る手法を考える。

その手法に関する紹介や適用時のガイドラインをまとめ、外部に公開する。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

サブ WG の運営に関する作業を委託することで、参加者の負担を軽減し、より活動に注力できるようにする。

サブ WG の開催に関する運営業務の委託。具体的には、次の作業(連絡用 ML の管理、会合開催の連絡、当日の出席・進行補佐、議事録の作成、成果物の管理等)。

組込み DevOps プラットフォーム WG

1. 活動概要 (2024 年度の事業方針)

ステアリング会議

2. 達成目標(完了条件)

昨今、組込み業界の顧客層が大きく変化している。顧客と対話するためのツールが求められている。組込み開発の開発手法も大きくかわりつつあり、既存ソフトウェアの活用が大変重要となっている。

組込み DevOps プラットフォームは、既存ソフトウェア、既存ハードウェア部品などを活用できる情報を開発企業に提供する。

DevOpsPF は、既存ソフトウェア、既存ハードウェアの情報を活用して、新しい層の顧客と対話するためのツールにもなる。

DevOpsPF の理想形、要件定義を行うことが、本 WG の目標である。

達成目標は、以下

- ・組込み DevOps プラットフォームの理想形の定義
- ・組込み DevOps プラットフォームの要件の定義

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

DevOpsPF の理想形と要件定義を行う

理想形と要件定義を行うための、会議を行う

【事業No.2】プラットフォーム構築

DevOpsPF の構築を行う。

大学生に業務委託して DevOpsPF の構築を進める。

ハードウェア委員会

デバイス WG

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

- (1) FPGA によるラダー、ROS(JASA 標準 IP の開発)
- (2) RISC-V 以外の新技術の習得
- (3) 新規参入の FPGA ベンダー(Effinix など)の評価ボードを利用して性能比較ならびに RISC-V の実装方法を確立する
- (4) 組込みハードウェアのノウハウ集

2. 達成目標(完了条件)

ラダー、ROS 標準 IP の仕様策定

評価ボードへの RISC-V 導入手順書の作成

周辺回路の製作と RISC-V による動作検証実施

3. 1 年目の目標

ラダー、ROS の標準 IP 策定

周辺回路の製作

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

WG 活動内容の報告、および技術セミナーなど

月 1 回の WG 開催

技術セミナー 2 回／年

【事業No.2】新 FPGA ボードの性能評価、ならびに FPGA 周辺回路の製作

RISC-V の普及活動のため

RISC-V を搭載可能な FPGA ボードを利用して周辺回路と組合せて、実装方法、RISC-V の利用方法などをメンバーへ展開する

RISC-V WG

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

【背景】

- ・RISC-VはオープンかつロイヤリティフリーのISA(命令セットアーキテクチャであり、組み込み機器では今後ますます重要性を増す認証やデータの安全性を担保するセキュリティ機能についても技術開発が進んでいくことから、JASAとして押さえておくべき重要技術の1つである。
- ・一方、実装にはノウハウが必要で、使いこなせるようになるにはノウハウの積み重ねが必要となる。
- ・20~23年度に会員が自由に利用できるJASA版FPGA用RISC-Vプラットフォームを開発し公開した。

【方針】

1. オープンな仕様で、会員及び業界が自由に活用できるRISC-Vプラットフォームを会員の協力で開発する。
2. 外部関連団体との協創など、開発したRISC-Vプラットフォームの普及活動を行い、応用範囲を広げる
3. 上記活動を通してRISC-Vコミュニティに貢献するとともにJASAのプレゼンス向上を図る。
- ・今までのFPGAに加え、SoCにてRISC-Vプラットフォームを作り、会員がRISC-Vを題材にSoC開発可能(=追試可能、カスタマイズ可能)な手順にまとめてWeb公開するとともに応用できる環境を整備する。

2. 達成目標(完了条件)

- (1) 毎月定例会を開催し、会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員のRISC-V理解を深める
 - ◇会員のRISC-Vに関する発表の場を提供すると共に、会員相互のスキルアップを支援する
 - ◇会員参加に向けたRISC-V著名人や有識者によるWeb講演会を実施する
 - ◇成果の発表機会を作る(ET展への出展や他WGのプロジェクトへの部品としての提供など)
- (2) より実用的なRISC-Vプラットフォームを実現する
 - ◇これまで開発してきたプラットフォーム、及びドキュメント等の普及促進ツールを整備して活用促進を図る
 - ◇セキュリティ機能実装検討によるIoT組み込み機器向けデバイス認証・セキュリティ環境の構想をまとめ
- (3) RISC-V協会、その他の外部RISC-V関連団体との連携活動を行う(1つ以上の連携活動の実施)
 - ◇展示会でRISC-V協会とジョイントでRISC-Vコーナーを立ち上げ、展示を盛り上げる

3. 1年目の目標

- ◆興味を持つJASA会員がRISC-VSoCによるIoTエッジを開発できる環境の整備
 - ・JASA版RISC-VSoC開発手順の調査と調査結果に基づくSoC開発
 - ・上記の追試可能な形での手順まとめのコンテンツ化とWeb公開
 - ・SoC評価環境の準備
 - ・EdgeTech+West, EdgeTech+等展示会への出展(RISC-V協会等、外部関連団体との協創を図る)

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- ・委員間での会合
- ・毎月定例会を開催する
- ・会員もしくは外部のRISC-V有識者による勉強会を実施する

【事業No.2】RISC-Vプラットフォーム整備

- ・JASA版RISC-Vプラットフォームの整備と会員への成果公開
- ・JASA会員、他の委員会、WG等でも活用できるプラットフォームとしての整備
 - (1) JASA版RISC-VSoC製作
 - (2) 上記の製作手順調査並びに製作作業の実施
 - (3) 成果のWebコンテンツ化及びそのメンテナンス
 - (4) 上記SoCの評価ボードの設計製作

【事業No.3】外部団体との協創活動

- ・RISC-V 協会、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う
- ・WG の活動を RISC-V コミュニティで認知されたものにする
- ・JASA 会員が個別に外部団体に加入しなくても参加できるようにする
- ・特に RISC-V 協会と展示会で協創する

【事業No.4】広報活動

- ・JASA の RISC-V に対する活動を広報する
- ・会員の RISC-V 理解を深める

【(メンバー・会員対象)Web セミナー開催】

- ・定期会(メンバー会議)のタイミングで年 6 回程度開催する
- ・会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める

【展示会出展】

- ・EdgeTech+West2024, EdgeTech+2024 への出展

ET 事業本部

1. 活動概要(2024 年度の事業方針)

JASA の基盤事業として、成長性のある収益事業として発展させる

コロナ禍により、JASA の収益の柱である展示会事業がさまざまな課題に直面している。

以前のような、JASA の強固な収益事業とすべく、新たな展示会としての姿を目指す。

①応用分野の取込み

応用分野を持つ他の展示会や団体との共同開催を図ることで、展示会の規模・内容を強化

②若手来場者の取込み

新たな経済・社会活動を担う若手エンジニアを呼び込むべく、企画・運営体制を刷新

③業界団体ならではのコンテンツ提供

コミュニティの HUB、産業界や社会課題への提案など、業界団体主催ならではの新たな価値を提供

④魅力あるオンライン展示会の実現

with コロナを見据えた、実効力あるオンライン展示の実現とリアル展示との融合化

⑤営業力と出展社支援の強化

大小問向け営業施策の強化と、大小問向けの出展支援で、出展社数の大幅増を実現

2. 達成目標(完了条件)

2023 年度と 2024 年度の具体的な数値として以下を設定する(ナノオプトメディアとも共有済)。

2023 年度売上(257,275,000 円)

- ・EdgeTech+(217,200,000 円)
- ・EdgeTech+West(40,075,000 円)
- ⇒ JASA 業務提携費(85,000,000 円)



2023 年度売上(237,959,149 円)
・EdgeTech+(205,801,581 円) △11.3M
・EdgeTech+WEST(32,157,568 円) △7.9M
⇒ JASA 業務提携費(85,000,000 円)

2024 年度売上(304,451,350 円)

- ・EdgeTech+(259,826,350 円)
- ・EdgeTech+West(44,625,000 円)
- ⇒ JASA 業務提携費(100,000,000 円)



売上 2 億まで JASA 業務提携費 75M 固定、以降増えた分を 50:50 分配。ただし 1 億を上限とする。
対象は横浜の EdgeTech+ で WEST は含まない。
売上 @ 横浜 JASA 業務提携費
<= 200M 75M
= 220M 85M ← ここを予算とする

3.1 年目の目標

- ①応用分野の取込み : 共同開催(2 件)
- ②若手来場者の取込み : 若手主体企画(2 件)、運営側平均年齢(-5 歳)、来場者平均年齢(-3 歳)
- ③業界団体ならではのコンテンツ提供:

- ④コミュニティ連携企画(2件)、JASA 発信コンテンツ強化(技術委員会との連携)
⑤魅力あるオンライン展示会の実現:オンライン展示の顧客満足度(4以上)
⑥営業力強化と出展社支援の導入:復活した大小間数(5件)、新規の小小間数(10件)

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業本部の運営全般

本部会、推進委員会、各WG(展示会WG、カンファレンスWG)の開催

【事業No.2】EdgeTech+West@大阪

EdgeTech+West 2024 展示会実施に伴う運営委託費等

【事業No.3】EdgeTech+@横浜

EdgeTech+2024 展示会実施に伴う運営委託費、事業収入等

プラグフェスト実行委員会

1. 活動概要(2024年度の事業方針)

Society 5.0は、IoTで全ての人とモノが繋がり、情報共有が必要となるが、現在家電業界に於いて世界的に普及しているHDMIも根本的な思想は同様で、同一のインターフェースで全ての機器が等しく繋がり、双方向で情報共有を行っている唯一の規格である。

日本プラグフェストは、このHDMIの相互接続検証を日本で実施することを基本とし、国内外の家電メーカーに対し接続検証の場を設け、技術的な課題の共有や品質の向上に努めている。

日本プラグフェストで培われた経験を活かし、Society 5.0の実現に向けIoTで全ての人とモノが繋がるには何をすべきかを、JASA会員企業の視点とは別の視点から考察することで課題を克服し易くし、新しい価値の創造を行えるようフィードバックを実施する。

また、日本プラグフェストで使用しているプラットフォームを流用し、Society 5.0の実現に向けた実証実験や相互検証の場を提供することも検討する。

日本プラグフェスト参加の企業に対しては、JASA会員企業の認知度の向上及びET展への周知や情報提供を行うことで、そのプレゼンスを上げていくことも目的とする。

2. 達成目標(完了条件)

年に2回、東京と近畿圏で定期的に開催することで、参加の可能性のある家電メーカーに対して信頼や安心感を獲得するとともに、参加者と技術動向の把握、定期的な情報交換を実施することで技術の進化に追従し、より良い技術交流の機会を提供し続けることが目標。

3. 1年目の目標

HDMI2.1で新しく定められたゲーム業界でいち早く搭載されている、新機能・項目の接続検証の場として、日本プラグフェストは、国内のゲーム機器メーカーをはじめアジア各国のディスプレイメーカー(韓国)およびデバイスマーカー(台湾)に参加を促す。

技術的に最高峰かつ最新の接続テストが実施出来るのは、日本プラグフェストであることをPRする。

4. 各事業計画

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

実施計画策定のミーティングを実施

【事業No.2】日本プラグフェスト(春季)

HDMI規格にて接続試験を実施

京都にて実施予定。

【事業No.3】日本プラグフェスト(秋季)
HDMI 規格にて接続試験を実施
都立産業技術研究センターにて開催予定

III. 支部計画

北海道支部

1. 活動概要(2024年度の事業方針:事業予算案)

支部会の開催

セミナー開催 ビジネス交流委員会と一緒にを行う(予算は、ビジネス交流委員会で計上)
交流会(食事会&ゴルフ会)

2. 達成目標(完了条件)

支部会員を4社増やす。

支部会を2ヶ月に一回行う。

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

北海道支部の活性化及び会員増強の打合せ

HISホールディングス会議室にて、年度計画の打合せ及び懇親会を行う

【事業No.2】 国内外視察調査

事業計画なし

【事業No.3】 技術セミナー

事業計画なし

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

支部会員を増やす

支部会員を増やす為にJASAの活動を紹介するとともに交流を図る。

【事業No.7】 EdgeTech+／EdgeTech+west／ETロボコン等 イベント参加

ETロボコンボランティア交流

参加会社との交流を図り会員への加入を目的とする

東北支部

1. 活動概要(2024年度の事業方針:事業予算案)

● 支部会員増を図る

- ・会員増のために、会社訪問等による直接勧誘を行う
- ・支部事務局のある、岩手県・盛岡市等とビジネス交流委員会との共同セミナー開催を契機に東北支部会員増と支部活動の活性化を図る

● 支部会員へのサービス提供

- ・支部会、セミナー開催により会員企業の事業発展に寄与する
- ・EdgeTech+展期間内での交流会・勉強会の開催(例:最新のデバイスマーケターの動向等を知る)

- ・EdgeTech+展へのサポート(地方パビリオンの推進)
(例) JASA 会員が共同研究先(大学等)と共に技術を広める場を提供したい

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
東北支部事業の推進
会員企業の増
東北支部事業の事業遂行状況確認
技術セミナーを同日開催

【事業No.2】 国内外視察調査
事業計画なし

【事業No.3】 技術セミナー
会員企業にとり最先端の技術動向の提供を行い事業発展に貢献
IoT、AI 等に関するセミナー開催
(岩手県、盛岡市等の自治体(及びビジネス交流委員会)等との共同開催を予定)
支部会議との同日開催

【事業No.4】 その他セミナー
事業計画なし

【事業No.5】 研究会
事業計画なし

【事業No.6】 交流会
支部の交流、他団体との連携による支部活動の活性化
JASA ビジョン 2030 を受け、ビジネス交流委員会と東北支部との共催により
セミナー・交流会を開催する

【事業No.7】 EdgeTech+／EdgeTech+west／E T ロボコン等 イベント参加
事業計画なし

関東支部

1. 活動概要(2024年度の事業方針:事業予算案)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②協会本部を有する支部としての役割の再構築
- ③会員参加率を高めるためビジネスマッチング等の取組みを強化

2. 達成目標(完了条件)

JASA 活動への”のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

3. 1年目の目標

JASA 活動への”のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部企画運営、および支部会議運営推進
支部企画運営 WG(原則月例)、および支部会議(例会)開催

【事業No.2】国内外視察調査

新規ビジネス検討、会員間相互交流の創出
国内外企業、学術団体等を視察調査し、新規ビジネス検討/会員間相互交流を創出

【事業No.3】技術セミナー

事業計画なし

【事業No.4】その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】研究会

事業計画なし

【事業No.6】交流会

本部及び本部事業および支部との連携による、関東支部会員向け情報提供、および会員間相互交流の創出

本部の各種委員会および本部事業、また他支部と連携し、JASA 活動状況を積極的に関東支部会員に提供すると共に会員間相互交流を創出
経営者の交流を創出

【事業No.7】EdgeTech+／EdgeTech+west／E T ロボコン等 イベント参加

事業計画なし

中部支部

1. 活動概要(2024 年度の事業方針:事業予算案)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発を行う。
- ②中部支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供する。
- ③中部地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進する。

2. 達成目標(完了条件)

- 会員増強 会員数 22 社
- 中部経産局との協業事業実施 ワークショップの実施
- セミナーアイベント参加人数の増加 前年比 + 20 %
- 近隣大学との提携事業の実施 名古屋近隣大学とセミナー実施定例開催
- ET 名古屋の開催

3. 1 年目の目標

- 会員増強 中部支店のある会員企業に参加の働き掛け
- 国内外視察の実施
- 近隣大学との連携 技術セミナー 2 回以上 マネジメントセミナー 1 回以上
- 会員企業社員が参加するセミナーやボウリング大会の実施

4. 各事業計画

【事業No.1】支部運営会議 支部会議

中部支部 2024 年度事業計画、事業予算、遂行計画の確認と会員企業の経営者・幹部社員の情報交流
支部運営会議を 5 月と 12 月に実施し、事業案及び予算案の周知と会員の要望の確認

定例会を4回程度実施し、実施事業の内容決定や実績確認を行う

【事業No.2】国内外視察調査

国内外の情報産業の情報収集と地場大学・情報産業団体や企業との交流

海外視察は中堅幹部社員の海外経験の場としても提供

- ・国内の他地域の情報産業事情と協業の可能性を調査するとともに地場情報産業団体や企業との交流をする。
- ・東南アジアを中心とする海外の情報産業の実情及び協業の可能性を調査するとともに交流などを介して中堅管理者の海外経験を積むこと10月頃開催のタイトロニクス目標

【事業No.3】技術セミナー

- ・今後発展しそうな組込みシステム技術の普及・啓発を図る

・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年2回セミナー・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る

- ・セキュリティ関連のセミナーを継続的に実施

【事業No.4】その他セミナー

新時代を迎えるにあたり、今後のビジネスモデル、組織論や管理技術などを議論する場を提供する

- ・地元大学の経営学や管理技術の先生の協力を得て、上記目的を達成する講演を開催する

【事業No.5】研究会

会員各社幹部向け経営勉強会の実施

デジタルトランスフォーメーションが本格的に波及する中、中部地区の主産業である車分野もEV化や自動運転の推進など従来にはない方向を目指している。

会員各社の経営幹部を対象として時代に合ったビジネスモデルにどのように考えるか、後継者問題など各会社の経営課題を、ケーススタディを基に勉強する。

【事業No.6】交流会

会員企業の社員が相互に交流を図る機会を作る

地域の大学や企業訪問・交流

- ・多数の会員企業の社員が相互に交流・親睦をはかれる唯一の機会であるボウリング大会を開催する。
- ・人材確保の一環として大学で会社説明などを支部として実施する。
- ・近隣企業との協業を視野に交流の機会に参加する。

【事業No.7】EdgeTech+／EdgeTech+west／ETロボコン等 イベント参加

ETやET名古屋のイベントに参加する

- ・アジャイル研究会の成果をETの技術本部のセミナーや技術本部成果発表会で発表し、研究会の活動の評価を受ける
- ・ET名古屋の新しい開催方法を地元業界団体と協力して検討する
- ・人材不足の解決方法としての協業の情報を得るために協業委員会の地方開催イベントや国際委員会のイベントに参加する

北陸支部

1. 活動概要(2024年度の事業方針:事業予算案)

とともに支部活動に関わる会員、連携先を増やし、地域産業への貢献度向上を目指した活動展開。

- 1) 地域における産学官連携活動の推進。
- 2) 支部活動広報を兼ねた、人材育成・交流活動の推進。

2. 達成目標(完了条件)

- 1) 地域における産学官連携活動の推進。
e-messe KANAZAWA 出展 Matching Hub 出展
- 2) 本部および他地区と連携した技術力向上活動の推進
デジタル人材イノベーションチャレンジへの産学連携参加促進

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】支部運営会議 支部会議
事業計画なし

【事業No.2】国内外視察調査
JASA 活動広報、施策調査ヒアリング
視察調査(ヒアリング)に加え、DX イノベーション・ET ロボコンの普及の
広報活動を兼ねる。

【事業No.3】技術セミナー
組込み技術および周辺技術の普及
講師 2-3 名を招き、最新技術の紹介とともに、地元産学からの事例紹介を
実施し、ASA 活動の広報を兼ねる。

【事業No.4】その他セミナー
JASA 活動広報、産学官連携推進
JAIST Matching HUB 2024/11 月 関係団体セミナー出展。

【事業No.5】研究会
事業計画なし

【事業No.6】交流会
JASA 活動広報、産学官連携推進
富山県内にて交流セミナーまたは JAIST Matching HUB 2024/11 月 関係団体セミ
ナー、交流会の実施。(ビジネス交流委員会 予算)

【事業No.7】EdgeTech+／EdgeTech+west／E T ロボコン等 イベント参加
JASA 活動広報、会員獲得活動、DX イノチャレ、ET ロボコン参加啓蒙活動
e-messe KANAZAWA へのブース出展。
JASA 会員獲得に向けた、DX イノベーションチャレンジへの参加啓蒙として
参加費補助。

近畿支部

1. 活動概要(2024 年度の事業方針:事業予算案)

JASA ビジョン 2030 に則り、ローカルな支部としての価値を追求し、会員企業同士が交流で
きるポイントとしての活動を志す。
懇親会以外にも各種セミナーや国内視察などについても各社の交流がより進むような仕掛けを工夫
していく。
また他団体の交流が近年できていなかったので、本年度は他団体との交流も積極的に企画斡旋して
いきたい。

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部事業計画に基づいた具体案の検討と本部・支部事業の連絡および報告、官公庁・関連団体との情報共有

4月には前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算案を確認する。また春セミナーの案内、WG活動の報告会を行う。6月は春セミナーの活動報告、EdgeTech+west の周知、近畿経済産業局との意見交換を行う。9月には秋セミナーの案内、EdgeTech+の周知、国内視察の案内を行う。12月には近畿経済産業局との意見交換、国内視察報告、他団体連携状況報告及び次年度事業検討、3月は次年度予算と事業計画について確認し、近畿圏での活動報告会等を行う。

【事業No.2】 国内外視察調査

国内外の組込みシステム技術の調査、現地の経済情勢を観察

国内視察として地方の組込みシステム技術と地方情勢に関する調査及び意見交換を行い、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。これまで実施してきた海外視察は役目を終えたと判断し、今後は国際委員会に任せることにする。

【事業No.3】 技術セミナー

技術担当社員の情報収集、技術啓発

春季と秋季の2回、組込みシステム技術に関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬を負担し、企業の枠を超えた研修の場を提供する。

【事業No.4】 その他セミナー

総務・管理部門担当社員及び営業担当社員の人材育成

総務セミナーと営業セミナーはそれぞれ春季と秋季の2回、各方面から講師を招聘し、総務・管理部門担当社員及び営業担当社員を対象として実施する。講師の支払報酬を負担し、組込みシステムに特化した会員企業では比較的貧弱な分野である技術以外の分野へのスキルアップ、情報収集に役立てる。

【事業No.5】 研究会

4月には次世代の経営層を見据えた親睦会、9月には納涼月見会を実施する。

また12月には忘年会、1月には他団体と合同での賀詞交歓会を行う。

大阪万博を見据え官公庁及び関連団体との交流を密に情報収集し、また開催イベントに協賛して地域の活性化に寄与する。

【事業No.6】 交流会

会員企業社員相互の親睦や他団体との交流を図る

4月には次世代の経営層を見据えた親睦会、9月には納涼月見会を実施する。

また12月には忘年会、1月には他団体と合同での賀詞交歓会を行う。

大阪万博を見据え官公庁及び関連団体との交流を密に情報収集し、また開催イベントに協賛して地域の活性化に寄与する。

【事業No.7】 EdgeTech+／EdgeTech+west／E T ロボコン等 イベント参加

支部会員のET出展を促進する

JASA ビジョン 2030 を見据え会員企業のビジネスマッチング推進として、7月に予定されている EdgeTech+west への支部会員の出展を斡旋する。

九州支部

1. 活動概要(2024年度の事業方針:事業予算案)

これまでの九州支部事業実績と「JASA ビジョン 2030」および「2022 年度 3 か年計画」を踏襲し、以下を遂行していく。

- (1) 九州地区の特性を活かした事業を推進し、会員企業への貢献と組込みシステム技術の普及啓発を行う。
- (2) 九州地区における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化へ寄与する。
- (3) モノづくりフェアへ JASA 九州支部にて出展する。

2. 達成目標(完了条件)

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部事業の遂行状況確認、および関連機関や団体との情報交流。
半期ごとに年 4 回開催(5 月、8 月、11 月、2 月)。

支部会員を始め、九州支部が会員となっている福岡市 IoT コンソーシアムや福岡エレコン交流会などの関連機関および地場の大学等々から来賓を招いて実施。

【事業No.2】 国内外視察調査

九州圏内の優良企業視察により、参加企業の交流を図る
九州圏内で参加企業を募集し、JASA 会員と参加企業のビジネスマッチングの場を提供する。
優良企業視察により、視察企業とのコネクションを図る。

【事業No.3】 技術セミナー

(ビジネス交流委員会)

支部と連携した情報発信と、JASA プrezens 向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの 3 本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA 会員獲得を狙う。
集客方法や予算軽減なども考慮して、九州支部で出展する「日刊工業新聞社」様主催の「モノづくりフェア」内での開催とする。

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

事業計画なし。

【事業No.7】 モノづくりフェアへの出展

JASA の活動を九州の企業に PR するだけでなく、九州支部の会員企業のブランド認知を高め、商談を増やすことを目的として出展する
福岡市にて 10 月 16~18 日に行われる、モノづくりフェアへ JASA 九州支部として出展を行う。
九州支部の会員だけでなく、各本部、支部からの出展も募集する予定です。

IV 2024年度予算)

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人 組込みシステム技術協会
内訳書 全体

科 目	2023年度予算額	2023年度実績見込額	2024年度予算額	2024年度対予算差異	率	2024年度対実績差異	率	説 明
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益		0		0		0		
特定資産受利息				0		0		
受取会費	39,000,000	37,919,332	39,000,000	0	100%	1,080,668	103%	
正会員受取会費	35,000,000	33,999,332	35,000,000	0	100%	1,000,668	103%	
賛助会員受取会費	4,000,000	3,920,000	4,000,000	0	100%	80,000	102%	
事業収益	178,065,957	155,603,267	176,983,544	-1,082,413	99%	21,380,277	114%	
普及啓発事業収益	126,500,000	125,491,000	123,500,000	-3,000,000	98%	-1,991,000	98%	ET、ETロボコン
その他事業収益	51,565,957	30,112,267	53,483,544	1,917,587	104%	23,371,277	178%	その他事業
受取補助金等	0	0	0	0		0		
受取庫補助金				0		0		
雑 収 益	830,000	527,597	630,000	-200,000	76%	102,403	119%	
受取利息	270,000	102,312	0	-270,000	0%	-102,312	0%	定期預金
雑 収 益	560,000	425,285	630,000	70,000	113%	204,715	148%	印税
経常収益計	217,895,957	194,050,196	216,613,544	-1,282,413	99%	22,563,348	112%	
(2) 経常費用								
科 目	2023年度予算額	2023年度実績見込額	2024年度予算額	2024年度対予算差異	率	2024年度対実績差異	率	説 明
事 業 費	113,797,194	74,573,862	113,285,708	-511,486	100%	38,711,846	152%	
役員報酬	0	0	0	0		0		
給与手当	0	0	0	0		0		
アルバイト料	0	0	0	0		0		
派遣料	0	0	0	0		0		
退職給付費用	0	0	0	0		0		
退職金共済掛金	0	0	0	0		0		
福利厚生費	0	0	0	0		0		
出向料	0	0	0	0		0		
会議費	6,300,000	1,898,923	6,840,500	540,500	109%	4,941,577	360%	
旅費交通費	9,099,480	5,064,188	17,744,900	8,645,420	195%	12,680,712	350%	
通信運搬費	1,525,500	642,301	1,666,500	141,000	109%	1,024,199	259%	
減価償却費	0	0	0	0		0		
消耗什器備品費	0	0	0	0		0		
消耗品費	2,107,000	596,232	1,897,200	-209,800	90%	1,300,968	318%	
印刷製本費	3,534,750	4,235,178	3,214,750	-320,000	91%	-1,020,428	76%	
賃借料	0	0	0	0		0		
支払報酬	7,805,629	2,744,513	9,885,756	2,080,127	127%	7,141,243	360%	
支払手数料	300,835	213,931	365,898	65,063	122%	151,967	171%	
新聞図書費	61,000	0	65,000	4,000	107%	65,000		
水道光熱費	0	0	0	0		0		
租税公課	0	2,000	0	0		-2,000	0%	
会合費	13,770,000	9,055,066	15,682,300	1,912,300	114%	6,627,234	173%	
EDP費	1,778,400	61,977	149,400	-1,629,000	8%	87,423	241%	
業務委託費	63,546,000	49,949,423	51,826,504	-11,719,496	82%	1,877,081	104%	
広報費	2,492,000	64,900	1,181,000	-1,311,000	47%	1,116,100	1820%	
諸会費	0	11,230	0	0		110,000		
保険料	0	30,000	0	0		-11,230	0%	
支払寄付金	0	0	0	0		0		
雑 費	1,476,600	4,000	2,656,000	1,179,400	180%	2,652,000	66400%	
科 目	2023年度予算額	2023年度実績見込額	2024年度予算額	2024年度対予算差異	率	2024年度対実績差異	率	説 明
管 理 費	102,715,511	100,699,106	103,327,836	612,325	101%	2,628,730	103%	
役員報酬	22,200,000	22,200,000	22,200,000	0	100%	0	100%	
給与手当	28,012,859	28,012,859	28,700,500	687,641	102%	687,641	102%	
派遣料	0	0	0	0		0		
退職給付費用	4,040,650	4,040,650	5,586,998	1,546,348	138%	1,546,348	138%	
退職金共済掛金	480,000	480,000	600,000	120,000	125%	120,000	125%	
福利厚生費	7,600,000	7,600,000	7,405,784	-194,216	97%	-194,216	97%	
会議費	3,384,000	3,384,000	4,202,000	818,000	124%	818,000	124%	
旅費交通費	2,667,154	2,667,154	1,390,800	-1,276,354	52%	-1,276,354	52%	
通信運搬費	1,493,000	1,493,000	1,579,520	86,520	106%	86,520	106%	
減価償却費	550,000	550,000	550,000	0	100%	0	100%	
消耗什器備品費	0	0	0	0		0		
消耗品費	610,000	610,000	660,000	50,000	108%	50,000	108%	
印刷製本費	684,208	684,208	784,208	100,000	115%	100,000	115%	
賃借料	9,030,384	9,030,384	9,030,384	0	100%	0	100%	
支払報酬	7,237,740	6,237,740	7,356,240	118,500	102%	1,118,500	118%	
支払手数料	174,420	174,420	174,420	0	100%	0	100%	
新聞図書費	100,000	100,000	100,000	0	100%	0	100%	
水道光熱費	600,000	600,000	600,000	0	100%	0	100%	
租税公課	5,210,000	5,210,000	5,210,000	0	100%	0	100%	
会合費	1,738,000	1,738,000	1,012,000	-726,000	58%	-726,000	58%	
EDP費	2,586,896	2,586,896	3,079,016	492,120	119%	492,120	119%	
業務委託費	572,000	572,000	572,000	0	100%	0	100%	
広報費	100,000	100,000	100,000	0	100%	0	100%	
諸会費	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0	100%	0	100%	
保険料	313,200	313,200	313,200	0	100%	0	100%	
貯引当金繰入	7,000	7,000	7,000	0	100%	0	100%	
雑 費	1,324,000	307,595	113,766	-1,210,234	9%	-193,829	37%	
経常費用計	216,512,705	175,272,968	216,613,544	100,839	100%	41,340,576	124%	
評価損益調整前当期増減額								
評価損益等計	1,383,252	18,777,228	0	-1,383,252	0%	-18,777,228	0%	
当期経常増減額	1,383,252	18,777,228	0	-1,383,252	0%	-18,777,228	0%	
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	0	0	0		0		
経常外収益計	0	0</						

2024年度予算案（事業別）

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：千円)

1. 事業推進本部	収入								支出								取支								説明				
	2023年度予算		PCA実績見込		率	2024年度予算		2024年度予算前回		差	率予算		率実績		2023年度予算		PCA実績見込		率	2024年度予算		2024年度予算前回		差	率予算		率実績		
	500	215	43%	1,790	1,790		358%	833%	6,333	4,800	76%	8,402	8,402		133%	175%	-5,833	-4,585	79%	-6,612	-6,612		113%	144%					
事業推進本部	400	215	54%				0%	0%	760	630	83%	132	132		17%	21%	-360	-415	115%	-132	-132		37%	32%					
広報委員会	100		0%	100	100		100%		5,348	4,159	78%	6,447	6,447		121%	155%	-5,248	-4,159	79%	-6,347	-6,347		121%	153%					
政策提案委員会									113	10	9%	55	55		49%	527%	-113	-10	9%	-55	-55		49%	527%					
(経営者サミット委員会)				1,690	1,690			113		0%	1,767	1,767		1571%		-113		0%	-77	-77		69%							
2. 交流推進本部	2,710	584	22%	2,037	1,967	70	75%	349%	11,692	6,039	52%	9,718	11,207	-1,489	83%	161%	-8,982	-5,456	61%	-7,681	-9,240	1,559	86%	141%					
国際交流委員会		32						0%	1,817	1,402	77%	1,953	2,017	-64	107%	139%	-1,817	-1,370	75%	-1,953	-2,017	64	107%	143%					
ビジネス交流委員会	1,300	325	25%	342	717	-375	26%	105%	6,555	3,576	55%	4,439	6,055	-1,616	68%	124%	-5,255	-3,251	62%	-4,097	-5,338	1,241	78%	126%					
人財交流委員会	1,410	227	16%	1,695	1,250	445	120%	748%	3,320	1,062	32%	3,327	3,135	192	100%	313%	-1,910	-835	44%	-1,632	-1,885	253	85%	195%					
3. 人材育成事業本部	66,036	56,269	85%	58,617	58,617		89%	104%	59,568	47,864	80%	51,120	51,200	-80	86%	107%	6,468	8,406	130%	7,497	7,417	80	116%	89%					
ETEC事業推進委員会	17,859	14,857	83%	18,480	18,480		103%	124%	10,050	5,580	56%	11,700	11,700		116%	210%	7,809	9,277	119%	6,780	6,780		87%	73%					
教育研修コンテンツ事業推進委員会	2,074	1,185	57%	2,338	2,338		113%	197%	1,818	995	55%	1,812	1,812		100%	182%	255	190	74%	525	525		206%	277%					
外国人技術者教育研修WG	4,600		0%	3,800	3,800		83%		6,200	2	0%	3,408	3,488	-80	55%	227200%	-1,600	-2	0%	392	312	80	-25%	-26133%					
ET技術者教育委員会	33,000	31,991	97%	30,000	30,000		91%	94%	33,000	32,101	97%	30,200	30,200		92%	94%	-110		-200	-200				182%					
JASAイノベーションチャレンジ実行委員会	8,503	4,609	54%	4,000	4,000		47%	87%	8,500	6,544	77%	4,000	4,000		47%	61%	3	-1,935	-64510%				0%	0%					
人材育成事業本部（スリランカ、高齢者）		3,627						0%		2,641						986								0%					
4. 技術本部	4,026	40	1%	3,793	3,793		94%	9483%	15,504	3,798	24%	16,003	16,003		103%	421%	-11,478	-3,758	33%	-12,210	-12,210		106%	325%					
技術本部	225	15	7%	225	225		100%	1500%	2,506	765	31%	4,169	4,169		166%	545%	-2,281	-750	33%	-3,944	-3,944		173%	526%					
安全性向上委員会	532		0%	668	668		126%		1,004	132	13%	1,466	1,466		146%	1111%	-472	-132	28%	-798	-798		169%	605%					
組込みシステムセキュリティ委員会	3,080		0%	2,720	2,720		88%		3,736	1	0%	3,610	3,610		97%	669759%	-656	-1	0%	-890	-890		136%	165121%					
コモングラウンド委員会	100		0%				0%		856	105	12%	834	834		97%	796%	-756	-105	14%	-834	-834		110%	796%					
ドローンWG				100	100				840		0%	770	770			92%	-840		0%	-670	-670		80%						
スマートライフWG									220	104	47%	215	215		98%	206%	-220	-104	47%	-215	-215		98%	206%					
OSS活用WG									224	2	1%	224	224		100%	10717%	-224	-2	1%	-224	-224		100%	10717%					
応用技術調査委員会	48	25	52%	40	40		83%	160%	220	37	17%	182	182		83%	496%	-172	-12	7%	-142	-142		83%	1213%					
AI研究WG	41		0%	40	40		99%		190	1	0%	90	90		47%	13636%	-150	-1	0%	-50	-50		33%	7576%					
OpenELWG									286	112	39%	236	236		82%	211%	-286	-112	39%	-236	-236		82%	211%					
組込みIoTモデリングWG										1						0%	-1							0%					
組込みDevOpsプラットフォームWG									2,010	2,000	100%				0%	0%	-2,010	-2,000	100%				0%	0%					
ハードウェア委員会	RISC-VWG								3,322	539	16%	4,137	4,137		125%	767%	-3,322	-539	16%	-4,137	-4,137		125%	767%					
デバイスWG									90		0%	70	70		78%	17157%	-90		0%	-70	-70		78%	17157%					
5. ET事業本部	収入								支出								取支								説明				
ET展示会事業運営委員会	93,500	93,500	100%	100																									

2024年度予算案（事業別）

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：千円)

6. 支部	収入							支出							説明		
	2023年度予算	PCA実績見込	率	2024年度予算	2024年度予算前回	差	率予算	率実績	2023年度予算	PCA実績見込	率	2024年度予算	2024年度予算前回	差	率予算	率実績	
	7,480	1,560	21%	6,432	6,432		86%	412%	13,378	4,483	34%	13,584	13,613	-29	102%	303%	
北海道支部	24		0%	88	88		365%		24		0%	141	141		588%		
東北支部	153		0%	145	145		95%		589	34	6%	598	598		102%	1780%	
関東支部	900	650	72%	1,320	1,320		147%	203%	2,461	974	40%	3,570	3,570		145%	367%	
中部支部	1,721		0%	1,771	1,771		103%		2,974	820	28%	2,994	3,023	-29	101%	365%	
北陸支部									461	105	23%	586	586		127%	556%	
近畿支部	4,390	879	20%	2,796	2,796		64%	318%	6,359	2,497	39%	5,145	5,145		81%	206%	
九州支部	292	31	11%	312	312		107%	994%	510	53	10%	550	550		108%	1032%	